

地域福祉に係るアンケート調査結果報告書 (市民 (18 歳以上)、民生委員・児童委員) 【わかりやすい版】

I 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、令和5年度に「第5期地域福祉計画」を策定するに当たり、市民及び民生委員・児童委員の皆様から、近所付き合いやボランティア活動、地域福祉活動等に関する状況や意向などをお聞きし、今後の計画策定に反映するため、実施しました。

2. 調査設計

種類	①一般市民	②民生委員・児童委員
対象	市内在住の18歳以上市民より無作為抽出	全民生委員・児童委員
配付・回答	調査票の郵送配付 調査票の郵送回答／専用WEBサイトからインターネット回答（回答者選択）	調査票の郵送配付 調査票の郵送回答／専用WEBサイトからインターネット回答（回答者選択）
調査期間	令和4年12月14日～同月28日	令和4年11月25日～翌月28日

3. 回答結果

種類	①一般市民	②民生委員・児童委員	合計
配付	2,500件	146件	2,646件
回答	1,020件 (郵送785件) (WEB235件)	130件 (郵送115件) (WEB15件)	1,150件 (郵送900件) (WEB250件)
回答率	40.8%	89.0%	43.5%

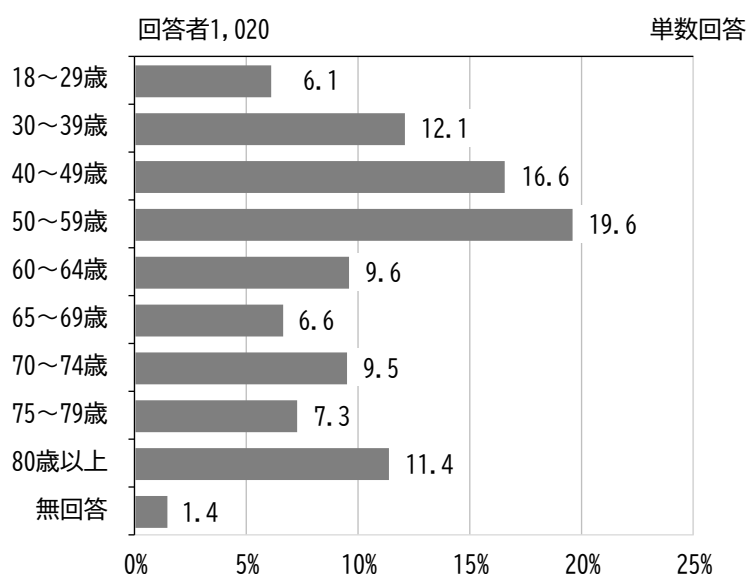


Ⅱ 市民調査結果

1. あなた（ご本人）のことについて

問2 年齢を教えてください。（1つに○）（令和4年9月1日現在）

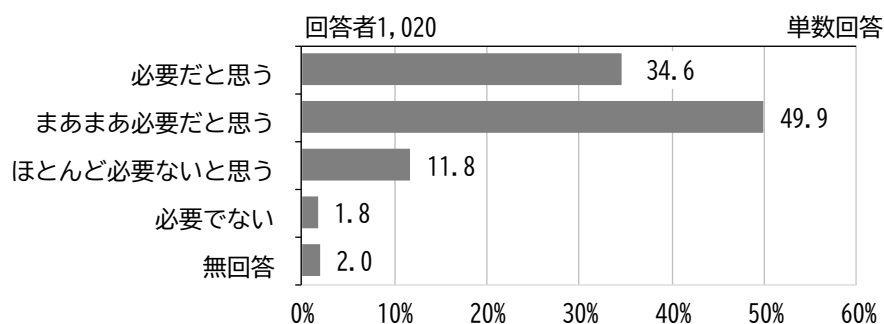
年齢を教えてくださいについて、「50～59歳」（19.6%）が最も多く、次いで「40～49歳」（16.6%）、「30～39歳」（12.1%）となっています。



2. 近所付き合いや地域の暮らしについて

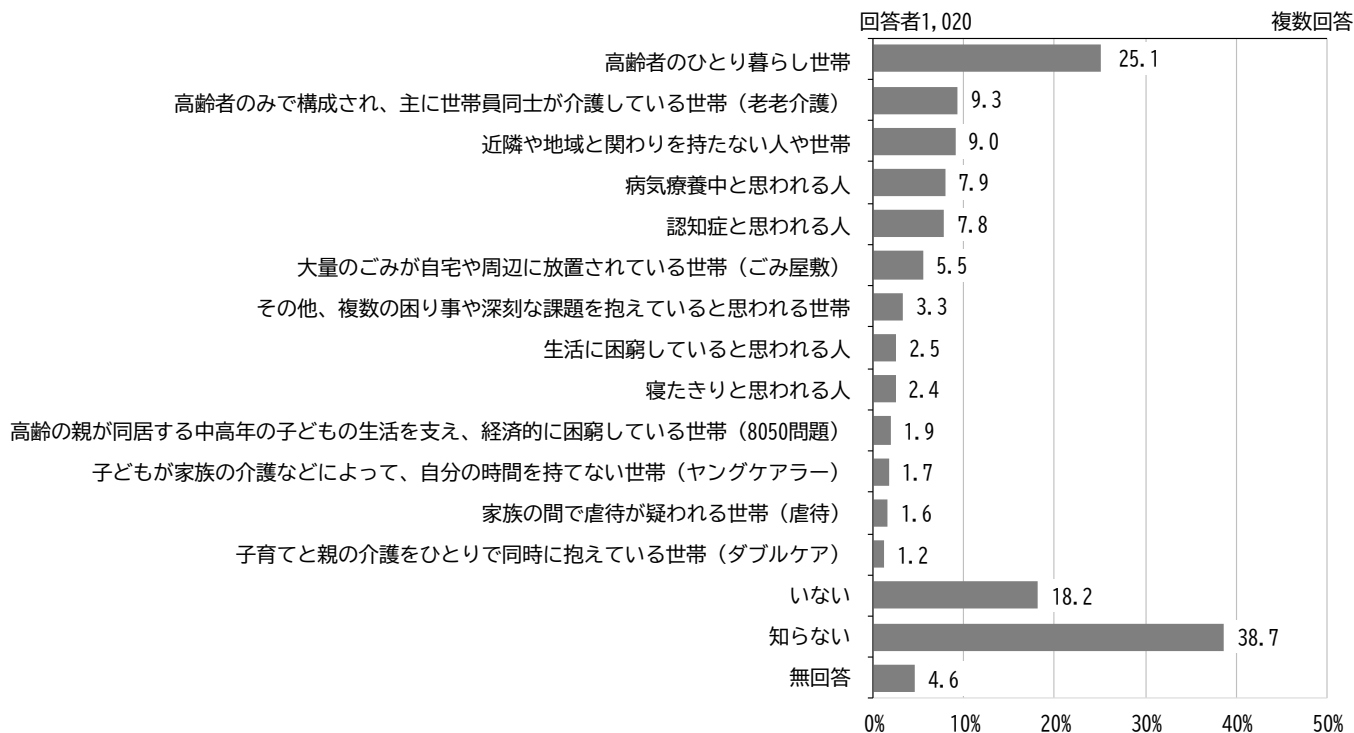
問9 あなたは、地域での人との付き合いや関わりが必要だと考えますか。（1つに○）

あなたは、地域での人との付き合いや関わりが必要だと考えますかについて、「まあまあ必要だと思う」（49.9%）が最も多く、次いで「必要だと思う」（34.6%）、「ほとんど必要ないと思う」（11.8%）となっています。



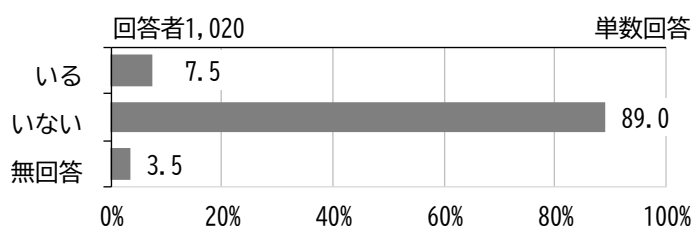
問10 ご自宅や近所に、次のような見守りなどの支援が必要な人や世帯、何らかの深刻な問題を抱えていると思われる人や世帯はありますか。(いくつでも○)

ご自宅や近所に、次のような見守りなどの支援が必要な人や世帯、何らかの深刻な問題を抱えていると思われる人や世帯はありますかについて、「知らない」(38.7%)が最も多く、次いで「高齢者のひとり暮らし世帯」(25.1%)、「いない」(18.2%)となっています。



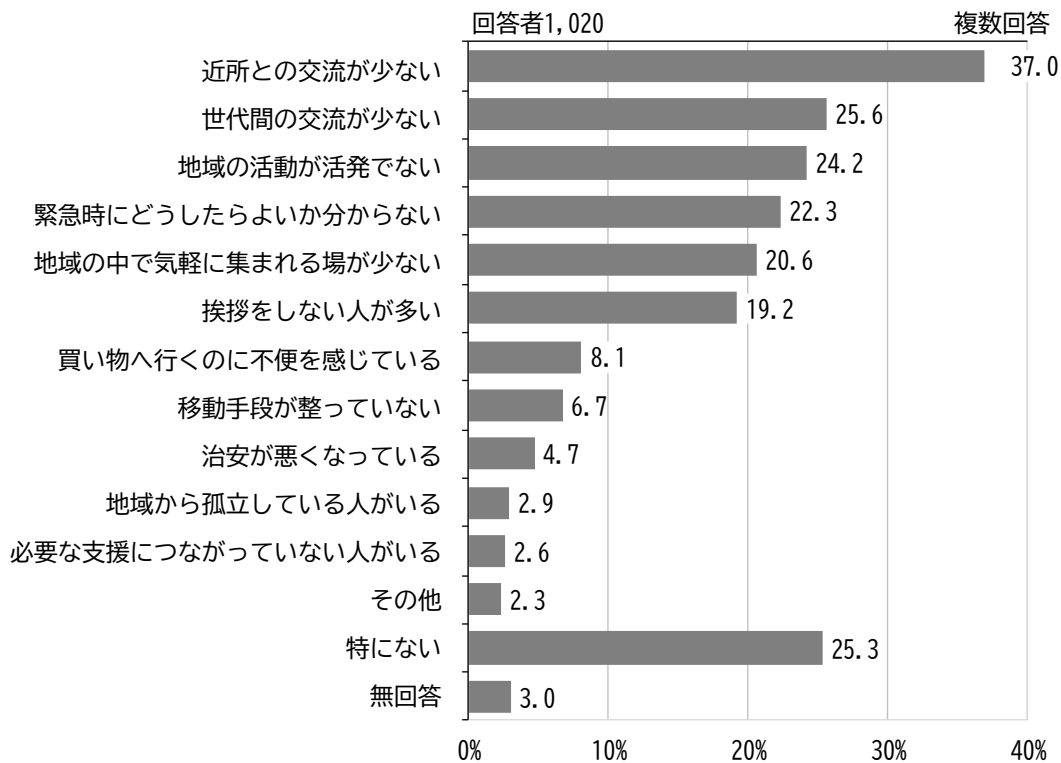
問11 自分自身、ご家族、近所の方、市内に住む親戚・友人などの中に、「ひきこもり」の状態に当てはまる人がいますか。(1つに○)

自分自身、ご家族、近所の方、市内に住む親戚・友人などの中に、「ひきこもり」の状態に当てはまる人がいますかについて、「いる」(7.5%)、「いない」(89.0%)となっています。



問13 お住まいの地域に次のようなことを感じていますか。(いくつでも○)

お住まいの地域に次のようなことを感じていますかについて、「近所との交流が少ない」(37.0%)が最も多く、次いで「世代間の交流が少ない」(25.6%)、「特にない」(25.3%)となっています。



問16 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすために、あなた自身にできることはありますか。【選択欄】から3つまで選んで、最もできる順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすために、あなた自身にできることはありますかについて、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「安否確認の見守り、声かけ」(27.3%)が最も多く、次いで「災害時の手助け」(13.4%)、「特にない」(11.3%)となっています。

2位は「ちょっとした買い物」(13.0%)が最も多く、次いで「安否確認の見守り、声かけ」(11.3%)、「災害時の手助け」(10.2%)となっています。

3位は「災害時の手助け」(11.7%)が最も多く、次いで「ちょっとした買い物」(7.5%)、「安否確認の見守り、声かけ」(7.0%)となっています。

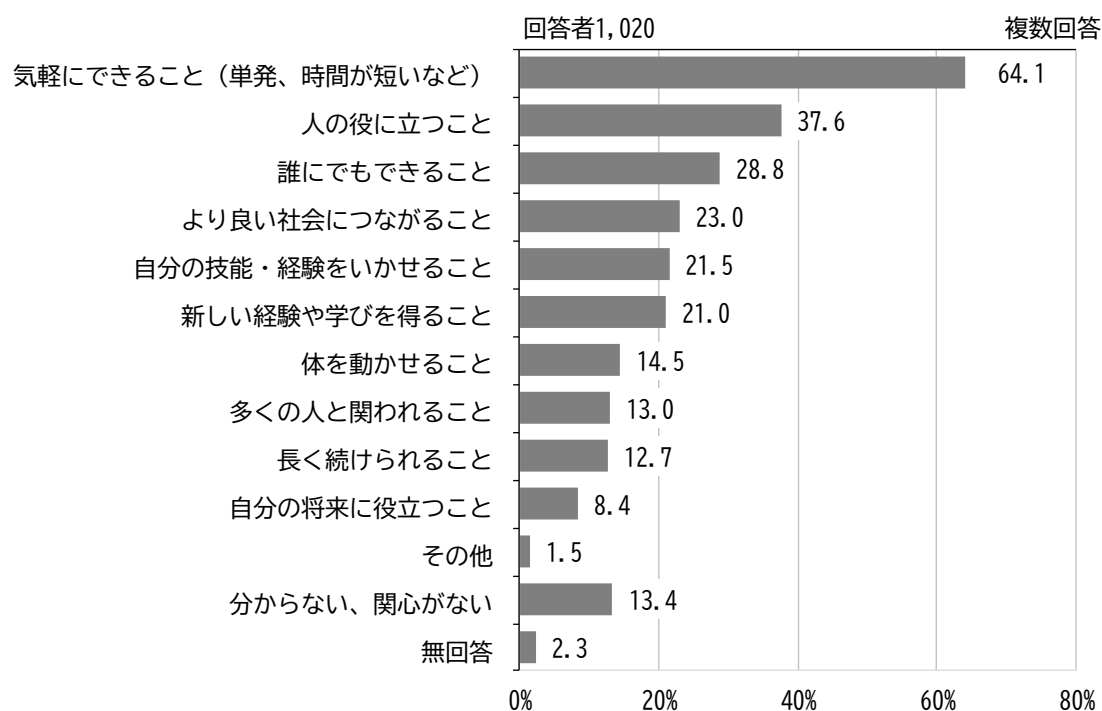
(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	安否確認の見守り、声かけ (27.3)	ちょっとした買い物 (13.0)	災害時の手助け (11.7)
2番目に多い回答	災害時の手助け (13.4)	安否確認の見守り、声かけ (11.3)	ちょっとした買い物 (7.5)
3番目に多い回答	特にない (11.3)	災害時の手助け (10.2)	安否確認の見守り、声かけ (7.0)

3. 地域での活動について

問 21 地域活動・ボランティア活動に参加しようとする際、どのような点を重視しますか。
(いくつでも○)

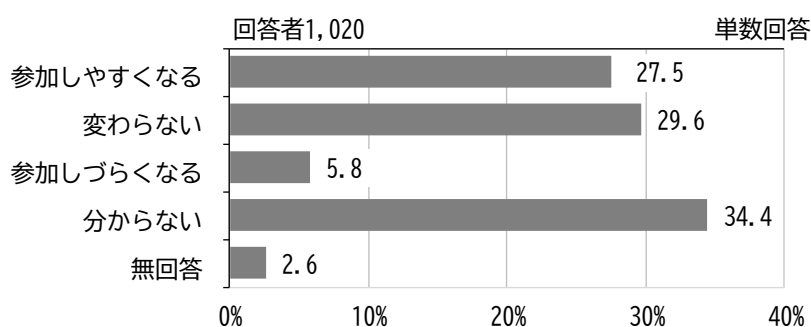
地域活動・ボランティア活動に参加しようとする際、どのような点を重視しますかについて、「気軽にできること(単発、時間が短いなど)」(64.1%)が最も多く、次いで「人の役に立つこと」(37.6%)、「誰にでもできること」(28.8%)となっています。



4. 福祉について

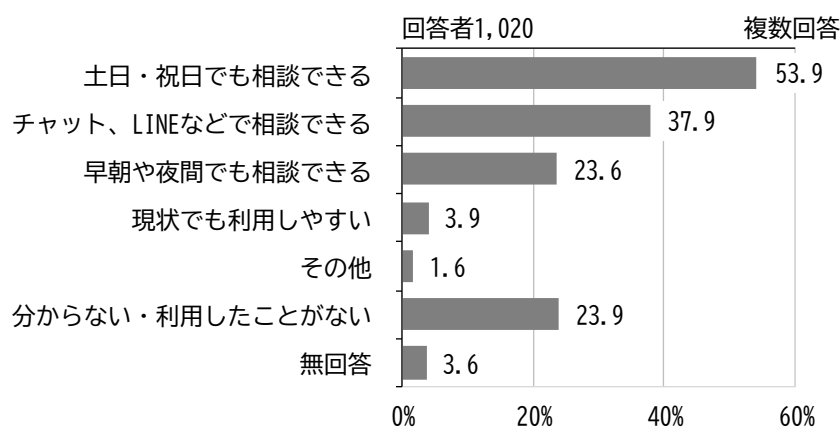
問29 今後、市や社会福祉協議会の講座・イベントがオンラインで開催（インターネットを介して参加する方法）される場合、参加しやすくなりますか。（1つに○）

今後、市や社会福祉協議会の講座・イベントがオンラインで開催（インターネットを介して参加する方法）される場合、参加しやすくなりますかについて、「分からない」（34.4%）が最も多く、次いで「変わらない」（29.6%）、「参加しやすくなる」（27.5%）となっています。



問32 相談窓口をより利用しやすくする方法は何ですか。（いくつでも○）

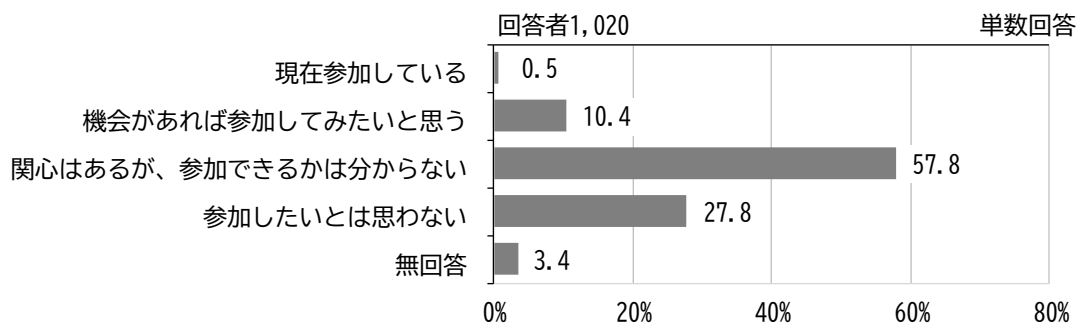
相談窓口をより利用しやすくする方法は何ですかについて、「土日・祝日でも相談できる」（53.9%）が最も多く、次いで「チャット、LINEなどで相談できる」（37.9%）、「分からない・利用したことがない」（23.9%）となっています。



5. 「ほっとするまちネットワークシステム（通称 ほっとネット）」について

問 36 ほっとするまちネットワークシステム（通称 ほっとネット）の中で、地域の問題や課題を発見し、解決のために協力してくださる市民の方（ほっとネット推進員）を募集しています。今後、参加してみたいと思いますか。（1つに○）

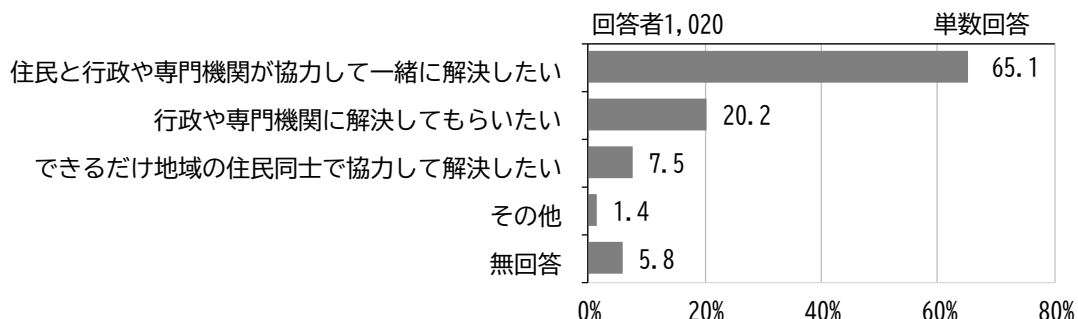
ほっとするまちネットワークシステム（通称 ほっとネット）の中で、地域の問題や課題を発見し、解決のために協力してくださる市民の方（ほっとネット推進員）を募集しています。今後、参加してみたいと思いますかについて、「関心はあるが、参加できるかは分からない」（57.8%）が最も多く、次いで「参加したいとは思わない」（27.8%）、「機会があれば参加してみたいと思う」（10.4%）となっています。



6. これからの取組について

問 40 今後、地域の中で起こる困り事や心配な事に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。（1つに○）

今後、地域の中で起こる困り事や心配な事に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますかについて、「住民と行政や専門機関が協力して一緒に解決したい」（65.1%）が最も多く、次いで「行政や専門機関に解決してもらいたい」（20.2%）、「できるだけ地域の住民同士で協力して解決したい」（7.5%）となっています。

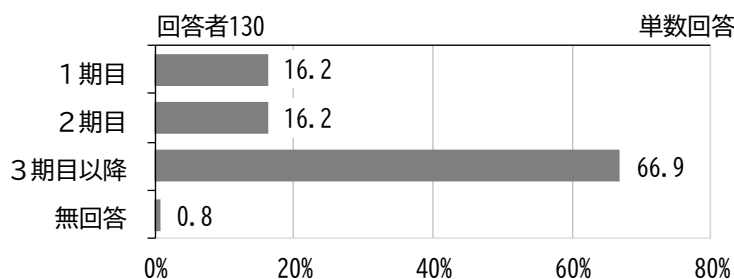


Ⅲ 民生委員・児童委員調査結果

1. 活動について

問1 11月1日現在、何期目ですか。(1つに○)

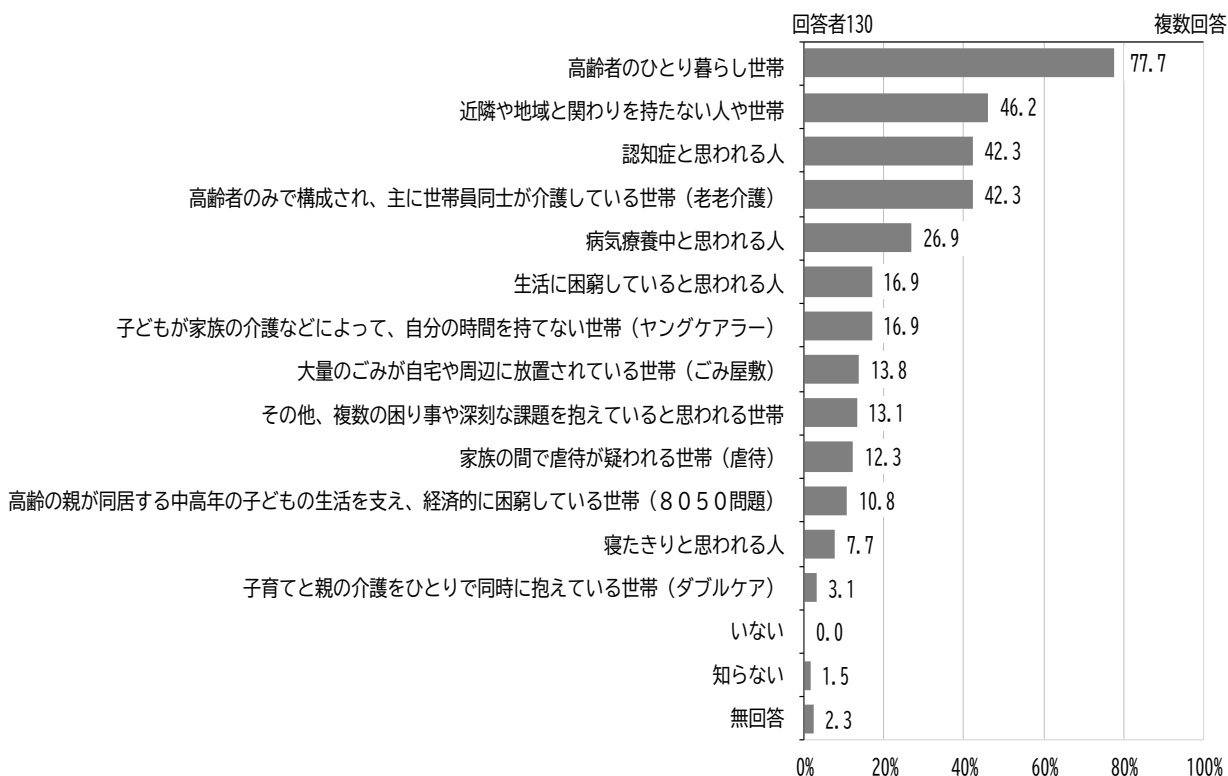
11月1日現在、何期目ですかについて、「3期目以降」(66.9%)が最も多く、次いで「1期目」、「2期目」(16.2%)となっています。



2. 担当地区について

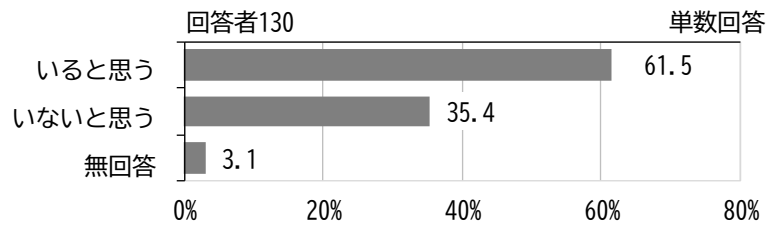
問8 担当地区に、次のような見守りなどの支援が必要な人や世帯、何らかの深刻な問題を抱えていると思われる人や世帯はありますか。(いくつでも○)

担当地区に、次のような見守りなどの支援が必要な人や世帯、何らかの深刻な問題を抱えていると思われる人や世帯はありますかについて、「高齢者のひとり暮らし世帯」(77.7%)が最も多く、次いで「近隣や地域と関わりを持たない人や世帯」(46.2%)、「認知症と思われる人」、「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯(老老介護)」(42.3%)となっています。



問 10 担当地区に「ひきこもり」の傾向にあると思われる方はいますか（相談や情報提供の有無は問いません）。（1つに○）

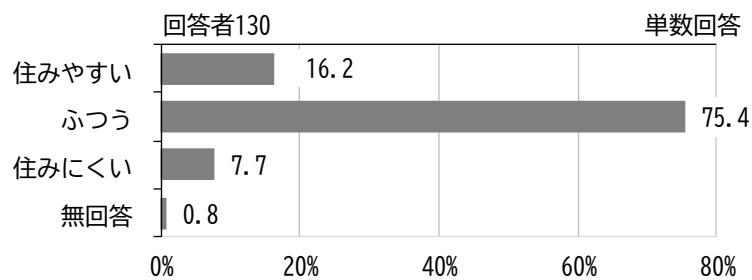
担当地区に「ひきこもり」の傾向にあると思われる方はいますかについて、「いると思う」（61.5%）が最も多く、次いで「いないと思う」（35.4%）となっています。



3. 福祉について

問 15 担当地区は、高齢者、障害者、子どもなど、誰にとっても住みやすい地域と思いますか。（1つに○）

担当地区は、高齢者、障害者、子どもなど、誰にとっても住みやすい地域と思いますかについて、「ふつう」（75.4%）が最も多く、次いで「住みやすい」（16.2%）、「住みにくい」（7.7%）となっています。



担当圏域別にみると、すべての圏域で「ふつう」が最も多くなっています。南部地区は「住みやすい」が3割近くと多くなっています。

		住みやすい	ふつう	住みにくい	無回答
各項目1位に網掛					
圏域	西部地区 (n=34)	8.8	88.2	2.9	0.0
	北東部地区 (n=34)	17.6	70.6	11.8	0.0
	中部地区 (n=31)	9.7	74.2	12.9	3.2
	南部地区 (n=31)	29.0	67.7	3.2	0.0

問17 民生委員・児童委員の活動をする上で、どのような情報を関係機関と共有したいですか。【選択欄】から3つまで選んで、最も共有したい順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

民生委員・児童委員の活動をする上で、どのような情報を関係機関と共有したいですかについて、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「福祉サービス事業所の情報（保育、介護、障害等を含む）」(42.3%)が最も多く、次いで「市の事業」(22.3%)、「地域で活動する団体の情報」(14.6%)となっています。

2位は「地域で活動する団体の情報」(23.8%)が最も多く、次いで「福祉サービス事業所の情報（保育、介護、障害等を含む）」(20.8%)、「学校の情報」(16.9%)となっています。

3位は「災害や避難などに係る防災情報」(30.8%)が最も多く、次いで「学校の情報」(17.7%)、「地域で活動する団体の情報」、「市の事業」(12.3%)となっています。

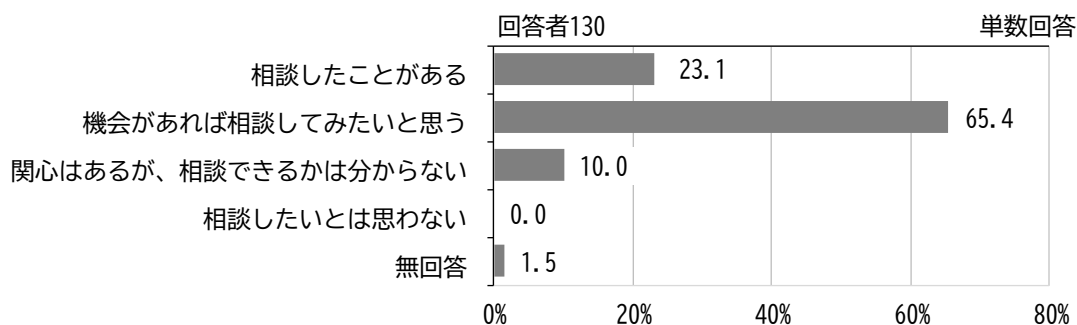
(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	福祉サービス事業所の情報（保育、介護、障害等を含む）(42.3)	地域で活動する団体の情報 (23.8)	災害や避難などに係る防災情報 (30.8)
2番目に多い回答	市の事業 (22.3)	福祉サービス事業所の情報（保育、介護、障害等を含む）(20.8)	学校の情報 (17.7)
3番目に多い回答	地域で活動する団体の情報 (14.6)	学校の情報 (16.9)	地域で活動する団体の情報 (12.3) 市の事業 (12.3)

4. 「ほっとするまちネットワークシステム（通称 ほっとネット）」について

問18 地域の皆様からの、生活上の困り事の相談を受け付ける窓口として、「ほっとネットステーション」を設置しており、「地域福祉コーディネーター」が常駐しております。今後活動の中で地域の人の困り事を聞いたときに、相談してみたいと思いますか。(1つに○)

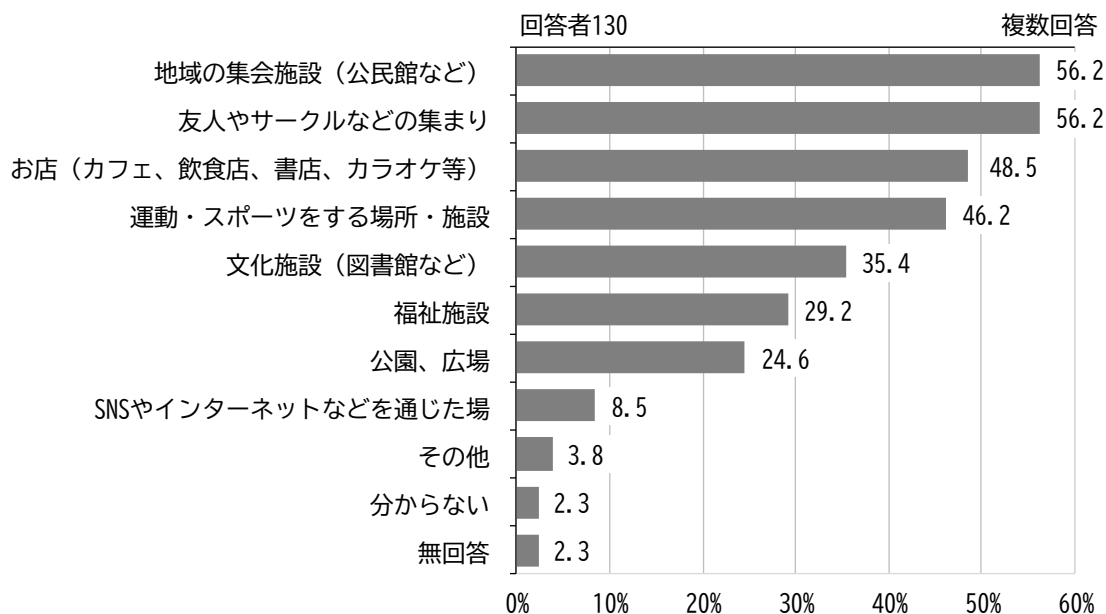
地域の皆様からの、生活上の困り事の相談を受け付ける窓口として、「ほっとネットステーション」を設置しており、「地域福祉コーディネーター」が常駐しております。今後活動の中で地域の人の困り事を聞いたときに、相談してみたいと思いますかについて、「機会があれば相談してみたいと思う」(65.4%)が最も多く、次いで「相談したことがある」(23.1%)、「関心はあるが、相談できるかは分からない」(10.0%)となっています。



5. これからの取組について

問 20 住民が孤立せず、孤独感を感じないよう、気兼ねなく過ごせる「居心地の良い場所」として、担当地区にどのような場が増えるとよいと思いますか。(いくつでも○)

住民が孤立せず、孤独感を感じないよう、気兼ねなく過ごせる「居心地の良い場所」として、担当地区にどのような場が増えるとよいと思いますかについて、「地域の集会施設（公民館など）」、「友人やサークルなどの集まり」（56.2%）が最も多く、次いで「お店（カフェ、飲食店、書店、カラオケ等）」（48.5%）となっています。



問 21 安心して暮らせるまちのために、住民参加の取組として、どのような活動が重要だと思いますか。【選択欄】から3つまで選んで、最も重要な順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

安心して暮らせるまちのために、住民参加の取組として、どのような活動が重要だと思いますかについて、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「地域での声かけ、見守り活動」(39.2%)が最も多く、次いで「高齢者・親・子どもなどの世代間交流」(10.8%)、「災害時に助け合うための関係づくり」(10.0%)となっています。

2位は「災害時に助け合うための関係づくり」(16.9%)が最も多く、次いで「高齢者・親・子どもなどの世代間交流」(15.4%)、「住民が参加しやすい場所、拠点づくり」(13.8%)となっています。

3位は「住民が参加しやすい場所、拠点づくり」(20.0%)が最も多く、次いで「災害時に助け合うための関係づくり」(13.8%)、「日常のちょっとした困り事のお手伝い」(11.5%)となっています。

(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	地域での声かけ、見守り活動 (39.2)	災害時に助け合うための関係づくり (16.9)	住民が参加しやすい場所、拠点づくり (20.0)
2番目に多い回答	高齢者・親・子どもなどの世代間交流 (10.8)	高齢者・親・子どもなどの世代間交流 (15.4)	災害時に助け合うための関係づくり (13.8)
3番目に多い回答	災害時に助け合うための関係づくり (10.0)	住民が参加しやすい場所、拠点づくり (13.8)	日常のちょっとした困り事のお手伝い (11.5)

地域福祉に係るアンケート調査結果報告書

(市民(18歳以上)、民生委員・児童委員)

【わかりやすい版】

発行・編集：西東京市健康福祉部地域共生課

発行年月日：令和5年3月

〒188-8666 東京都西東京市南町 5-6-13(田無第二庁舎1階)

電話：042-420-2807(直通) FAX：042-420-2896

E-MAil: fukushisougou@city.nishitokyo.lg.jp